

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	歴史研究所教育事業	会計	一般会計	事業No.	769	施策順No.	29-007
		事業種別	政策・重点	予算科目	10-5-8-11-2		
政策	2 地育力によるこころ豊かな人づくり			課等名	歴史研究所		
施策	29 ふるさと意識の醸成			事業期間	開始	14	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	市民 中・高校生							A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
		飯田市の人口(人) (H22.10.1推計人口)		106630	105691	105036	107000		
		中・高校生生徒数		7880	8237	8181	7500		
意図		・歴史・文化についての関心・理解を深める。							
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度	
	受講した市民の数	778	1529	2443	1330	2333	1430	A	
	出前講座等に参加した中・高校生の数(延べ)	526	187	529	200	349	200		
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	出前講座は高校での開催数が減少したものの、市民参加者は昨年を上回り、歴史を学ぶ身近な機会として市民に認識されつつある。								

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	<ul style="list-style-type: none"> ・大学等の高等教育機関が少ない本市において、最新の研究成果、体系的な知識や理論、方法論を提供することで市民の歴史・文化についての関心・理解を深める。 ・市民を対象にした外部講師(大学教授等)による大学教育レベルの学術講座の定期的な開催や、調査研究活動を基礎にした研究所スタッフの指導により、市民が主体的に自らの歴史を学んでいく環境を提供する。 ・市民が主体的に歴史を学んでいくゼミナール等を中心に、地域の歴史・文化を発見し、豊かな人材育成を図る。 ・若い世代がこの地域の歴史を学び、かつより広い視野を持つ機会を提供し、この地域を大切に思う心を培う。 		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 飯田アカデミアの開催 2 歴研ゼミナール開催(新規ゼミナール思想史ゼミの開始) 3 地域史講座開催 4 出前講座(学校・団体等)の開催、体験学習の受け入れ、高校生を対象にした、「歴史学オリエンテーション」の開催 5 歴研ニュースの発行 6 市民研究員の育成 	<ol style="list-style-type: none"> 1 アカデミア開催数 2 歴研ゼミナール開講数 3 地域史講座開催数 4 出前講座等開催数 5 歴研ニュース発行回数 6 市民研究員の人数 	<ol style="list-style-type: none"> 1 6回 2 61回 3 5回 4 19回 5 6回 6 3人
23年度実施計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 飯田アカデミアの開催 2 歴研ゼミナール開催(新規ゼミナール古代史ゼミの開始) 3 地域史講座開催 4 出前講座(学校・団体等)の開催、体験学習の受け入れ、高校生を対象にした、「歴史学オリエンテーション」の開催 5 歴研ニュースの発行 6 市民研究員の募集・育成 	<ol style="list-style-type: none"> 1 アカデミア開催数 2 歴研ゼミナール開講数 3 地域史講座開催数 4 出前講座等開催数 5 歴研ニュース発行回数 6 市民研究員の人数 	<ol style="list-style-type: none"> 1 3回 2 60回 3 10回 4 30回 5 6回 6 5人

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項 (そ) 諸収入 39
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他		70	39	70	
一般財源		1,710	1,279	1,625		
計(A)		1,780	1,318	1,695		
	正規職員所要時間		1,600			
	臨時職員等所要時間					
	人件費計(B)		5,722			
	トータルコスト A+B		7,040			

4 事業に対する市民や議会の意見

アカデミア参加者からは、具体的な講座希望内容や事業の意義について評価する意見が多い。大学がない本市において、「飯田でこのような水準の高い講義を受けることができ、うれしい」、「もう1単位くらいあった方がよかった」等の声がある。参加者が少なく、PR方法の工夫が必要という意見が多い。議会から歴史研究所事業に市民理解を深めること、子どもたちの故郷帰属意識醸成のため歴史研究所等で発行している副読本の子どもの版を作成し活用することという意見がある。外部評価委員会から、学校や市民との協働をキーワードに事業を進めることが課題であると評価がある。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	市民が地域を知る。地域を誇りに思う。	施策の成果指標又はムトス指標	飯田の自然・歴史・文化を学んでいる市民の数(延べ人数) ふるさと(飯田)を誇りに思っている市民の割合
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	・研究所での調査研究の成果は、テーマとして身近なものやクイズによるものを主として設定し、さらに各種講座に合わせてわかりやすく解説してきた。		
	後期に向けた課題	・講座等の魅力を高めるよう、公民館・図書館・美術博物館との協働による開催や、中・高校生の関心を引く講座の開催を増やす。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	・講座参加者あてに、イベントのお知らせダイレクトメールや、歴研ニュース配布により広報を重ねた。		
	後期に向けた課題	・研究所の活動が広く市民理解を得られるような、さらに市民が地域の歴史・文化に関心を深められるような講座開催や情報提供を行う。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	・アカデミアの開催は年8回開催として継続してきたが、平成22年度中に見直しを図り、回数を減らし広報に時間をかけるものとした。		
	後期に向けた課題	・参加者アンケートでの希望が多い、「古代」をテーマにするものを加える。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	・地域の歴史・文化について理解を深めることは、地域への愛着を深め人材を育てることに繋がり、市が関与する必要性が高い。		
	後期に向けた課題	・アカデミアや顧問研究員が担当する地域史講座の資料代の検討		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをされましたか、又は、配慮してましたか	4年間の振り返り	①建築士会による「アカデミア」の研修制度としての活用②広報による呼びかけ ①市民研究員による調査研究活動②研究所諸活動への助成、研究員の研究支援		
	後期に向けた課題	①新たな主体②研究所諸活動への支援、情報提供		
全体を通じて	4年間の振り返り	・研究所の諸活動が、市民の主体的な学習活動を促がす「きっかけづくり」「ネットワークづくり」となる事を基本に事業計画を行った。 ・学生を対象にした講座(歴史学オリエンテーション)の充実		
	後期に向けた課題	・顧問研究員による地域史講座の開催(メニュー化と開催計画) ・自ら主体的に学ぼうとする市民研究員を追加募集し長期的な育成と活動助成を行う。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要がありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要がありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------